

資料館運営費にご支援を



深澤晟雄の胸像(左)も老人医療費無料化発祥の地の記念碑「いのちの灯」も三角屋根に包まれて厳しい冬を待つ。資料館も凜として皆さんのご支援に応えようとしています。

生命尊重理念の 発信基地として

深澤晟雄資料館は平成20年10月開館以来4年、生命尊重の深澤理念を発信する「いのちの館」として全国から注目され、生命が軽視されがちな昨今、資料館の存在意義は益々高まってきています。

そうした時代の要請と町の活性化に貢献しようと、

NPO法人深澤晟雄の会では資料館の一般公開に鋭意努力を重ねて参りました。しかし、昨年の大震災以降入館者が激減し、町からの助成金と有志の皆さんの寄付金を含めても、年間の運営経費確保が難しい状況になってきました。

運営支援仰いで 深澤精神に徹す

昭和30年代、厳しい財政

冬期は予約開館

12月18日~3月末

資料館は12月18日から3月末日までは原則休館とし、予約によって開館します。火曜定休日・年末年始も予約で開館しますので入館希望者はご連絡下さい。予約は深澤晟雄の会事務局(下記の電話・FAX)へお願いします。当日予約でもスタッフの都合がつけば対応できますが、早めの予約をお願いします。

寄付は郵便振替

または事務局へ

難の中でも村民と共に必死で「いのちの灯」を灯し続けた深澤生命行政を思うとき、資金不足を理由にあきらめては深澤精神に反します。私たちは皆様の温かいご支援をお願いします、その心に込める努力を重ねて「生命尊重の深澤理念」を発信し続けたいと考えます。

そこで皆様に「資料館運営支援寄付金」を仰ぎたく皆様の温かいご支援を心からお願ひ申し上げます。

町内の方は深澤晟雄の会事務局に「寄付したい」と電話(81-1722)下さい。担当者がお伺いします。町外等遠方の方は郵便振替で口座番号18310-14368891「特定非営利活動法人深澤晟雄の会」へ送金して下さい。お問い合わせは下記の深澤晟雄の会事務局へ。

金一封に感謝

仙台市(株)YSワークス代表 佐藤芳直様
東京都(株)玄代表取締役 政所利子様
沢内第一中学校第17回生

昭和39年度卒業生一同様

仙台の小学生

資料館で夏休みの自由研究

仙台市立榴岡(つつじがおか)小学校3年の太田代歌織さんは、今年の夏休みにお母さん(一世さん・沢内太田)の実家を訪ねて深澤晟雄資料館で自由研究をしました。その内容を「ふかさわまさおさんは えらい!新聞」と名づけた新聞に仕立てて資料館で学んだことをまとめました。

歌織さんの新聞に担任の先生は「良くできていますね」と褒めてくれたそうです。小学生にも「いのち」の思いを深くさせる資料館として、この新聞は資料館内にも掲示していますが、本紙でも皆さんにご紹介します。



歌織さん(左)たちがお母さん(右後方)と資料館を訪問したのは8月23日でした。

ふかさわまさおさんは えらい!! 新聞

山石手けん西わが町の ふかさわまさおしりょう かんに行。てお母さんが うまれた村のことをも 調べてきました。

ある年は、15歳で生まれた赤ちゃんが1才になる前に、りんも死んでしまいました。

まよおさんがしたことは、新カたのアルドサをかりて雪道を避れるようにした。お年よりが病院に行。ても、おまをほわなくてよくした。

③ 赤ちゃんが死んでしまっ かりつを、0%にした (日本ではじめてです。)

④ 仙台市医師会さんをもんだこと

⑤ もりおがまでバスをまらせた

まよおさんが村長になる前は大雨で、久には病院に行くのがむすかし。小の子どもやろう人がたくさん死んでいました。

ある年は、15歳で生まれた赤ちゃんが1才になる前に、りんも死んでしまいました。

まよおさんがしたことは、新カたのアルドサをかりて雪道を避れるようにした。お年よりが病院に行。ても、おまをほわなくてよくした。

③ 赤ちゃんが死んでしまっ かりつを、0%にした (日本ではじめてです。)

④ 仙台市医師会さんをもんだこと

⑤ もりおがまでバスをまらせた

まよおさん(左)が村長



まよおさん(右)が村長



「セムロスモス」には、長は、は、

本紙と同じA4判の大きさですが、写真や図を配した3段組の紙面構成と中見出しつきの編集センスはすばらしい。

歌織さんの「ふかさわまさおさんは えらい!新聞」は、岩手けん西わが町の ふかさわまさおしりょうが村長に 行。てお母さんが生まれた村のことを調べてきました。 という書き出しで、 大雪で冬には病院に行くのがむすかし。て、小さい子どもや、ろう人がたくさん死んでいました。と雪に苦勞した時代を紹介しています。

まさおさんがしたこと
乳児死亡率ゼロなど5項目を挙げて、深澤村長の業績を讃えています。
ひいじいちゃんもえらい!
まさおさんが活やくして いた時に ひいおじいちゃん がいつしよにたくさんは たらいていたそうです。と、 ひいおじいちゃん(故照井富太 さん)を誇りにしています。

歌織さんの新聞記事は、 次の言葉で結んでいます。 もし、まさおさんが活やくしていなかったら、まだ 赤ちゃんがいっぱいいしんで いたかもしれないなど思いました。
おばあちゃんの家には何 回も行った事があるけれど、 今回調べてみて、くろうして きた村なんだなっていう ことが分かりました。